

三方よし！ 近江日野田舎体験

心の交流

農村生活体験記

三方よし！近江日野田舎体験推進協議会が教育旅行（修学旅行や野外活動）の誘致を始めて3年。今年度、すでに、約180軒の受入家庭で8校約1,400人の中学生を受け入れました。今後秋までに6校の中学生と2校の小学生、1,120人を受け入れる予定です。

たくさんの町民の皆さんに支えられたこの取り組み。今回は初めて受け入れをされた2軒のご家庭をご紹介します。5月12、13日に神奈川県海老名市立海老名中学校の修学旅行生が電車やバスを利用し、近江日野へやってきました。



▲お互いのことを話しながらの夕食



▲日野駅で初めての対面

伝統料理などを通して
まちの歴史を再発見



いけうち 池内
みつお 三男さん
きよこ 喜代子さん
(内池西)

5月12日

17:30 近江八幡駅からバスを利用して日野町にやってきた中学生3名と日野駅で対面。

18:20 池内さん宅で親戚も交えての夕食。鯛そうめん、日野菜漬けなど、日野ならではの料理も食卓に並び。



▲出来上がった夕食を囲んで乾杯



▲一緒に夕食づくり

普段の生活の中で
ともに過ごす大切さ



もり 森
こういち 晃一さん
ひろこ 弘子さん
(上野田)

5月12日

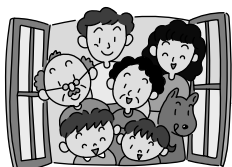
17:20 近江八幡駅からバスを利用してやって来た中学生4名と、バス停「伊勢道」で対面。

18:10 森さん宅周辺を散策し、山椒を摘む。

18:30 摘んだ山椒も使って夕食づくり。たけのこごはんはんに新じゃがいもの味噌汁、豚肉のしょうが焼

皆さんも「心の交流」してみませんか？

この秋以降にも、8校の小・中学校の受け入れを予定しています。近江日野田舎体験についてご興味をお持ちの方は、下記までお問い合わせください。



受入家庭の感想

■幸せな体験…

初めての受け入れでどうしていいのか不安でしたが、生徒たちから思い出が詰まった手紙が届いたときには本当にうれしかったです。喜んで帰ってもらえたことは、こちらもうれしくなりました。

孫たちと暮らしていないので、まるで孫と一緒に暮らしているような気持ちになりました。

私たちは食糧難時代に育ってきたので、このような素晴らしい出会いや体験ができる今の子どもたちは幸せだと思います。



▲離村式では握手でお別れ



▲教わりながら巻寿司を一緒に作る

夕食を食べながら、近江日野商人であった池内さんの祖先のお話をしたり、生徒たちのおうちの話を聞いたり、いろいろなテーマで会話が広がる。

5月13日

8:00 みんなで朝食のオムライスづくり。

9:00 朝から池内さん宅のご近所にある鈴休神社と照光寺など、内池地区を歩いて散策。

10:00 家に帰って昼食づくりに挑戦。三男さんも大好きな巻寿司を、生徒たちと一緒に作る。巻き方、切り方などを説明しながら、色鮮やかな巻寿司が完成。

11:45 昼食を終え、「離村式」が開かれる大谷公園へ出発。

受入家庭の感想

■こちらにも感動が…

初めは生徒のための受け入れだと思っていましたが、生徒と別れると、受け入れ側も心が和やかに、豊かになる気持ちが生まれることを実感しました。

方言に興味を持ったりする姿などからは、町の地域文化を大切にしなければと思いました。都会や田舎にこだわらずとも、知らない地域間での交流で、心の通い合いは十分できると思います。

生徒たちからお礼の手紙をもらって、「こちらこそよい思い出をありがとう」という気持ちになりました。



▲お別れを前に涙する生徒も



▲畑で野菜の苗を植える

きなど、地元食材を使って料理をする。出来上がった料理を囲み、会話も弾む。

20:30 カエルの鳴き声を家の前で聞かす。300ピースのジグソーパズルに挑戦。生徒たちにサインを入れてもらって、思い出の品の出来上がり。

5月13日

7:30 目玉焼きなどの朝食づくり。

8:30 畑でキュウリとトウガラシの苗を植える作業。田んぼの畦でお茶とよもぎもちで一服。

10:00 花の種まき作業。

11:00 焼きそばなど昼食づくり。

12:00 昼食を終え、「離村式」が開かれる大谷公園へ出発。

海老名中学生から
こんな短歌が届きました

—忘れてはいけないものが日野にある 豊かな緑 心のふれあい
—日野町のホームステイで驚いた 「食べる」のことを「よばれる」という
—温かい人達に出会いふれあって あの人みたいになりたいな

◆問い合わせ先

三方よし！近江日野田舎体験推進協議会（事務局：商工観光課 商工観光担当）

☎6562